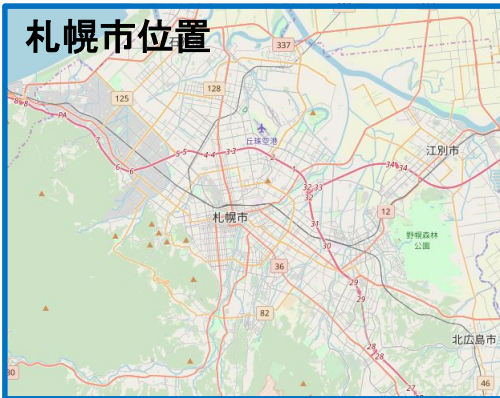


# ICTにより健康・快適を実現する市民参加型スマートシティ (スマートウェルネスシティ協議会)

## ■ 事業のセールスポイント

- ・ スマートシティを「市民参加」により実現(データ提供、まちづくりへの関与)
- ・ ICTにより、人の「行動変容」(徒歩中心のライフスタイル、回遊)を促進し、「健康」と「賑わい」の向上に寄与

## 札幌市位置



## ■ 対象区域の概要

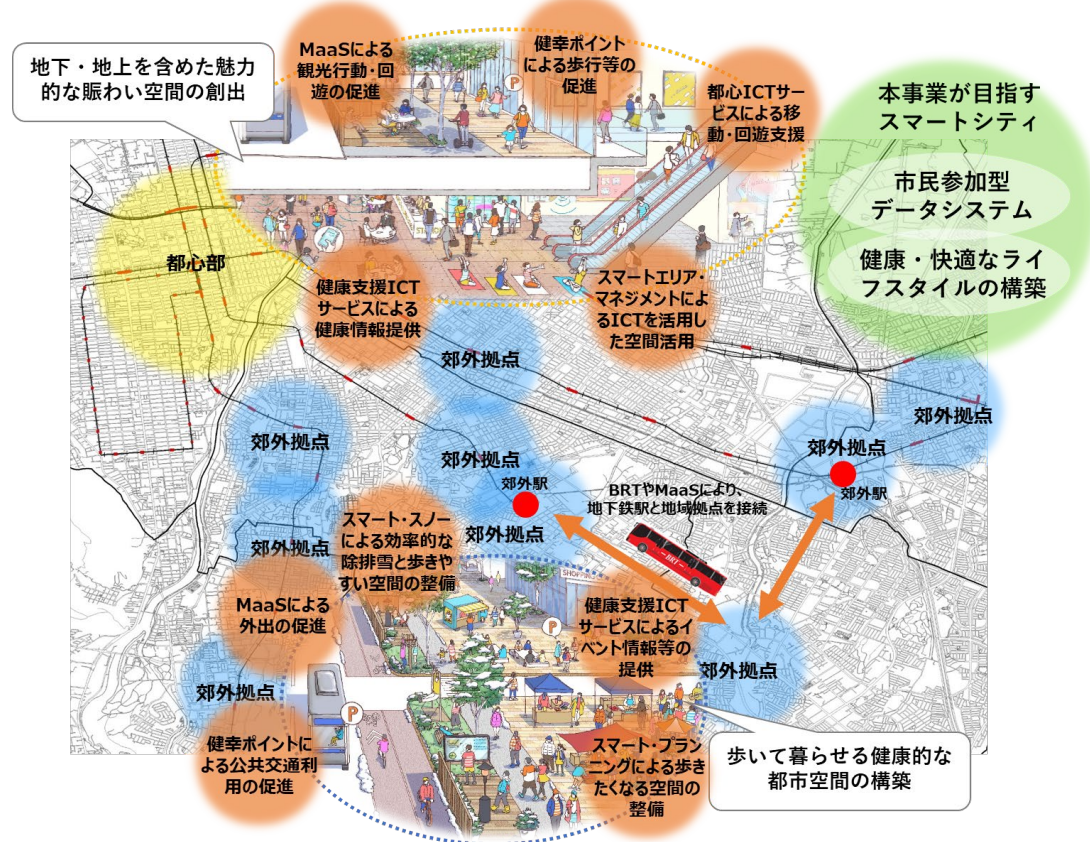
- 札幌市(都心部・郊外)
- 面積:約1,121 km<sup>2</sup>(札幌市全域)
- 人口:約197万人(札幌市全域)

## ■ 対象区域のビジョン

・健康をきっかけとした市民参加型のデータシステムに基づき、歩行や回遊等の市民の行動変容を促進し、健康と賑わい向上を実現

## ■ 本事業全体の概要

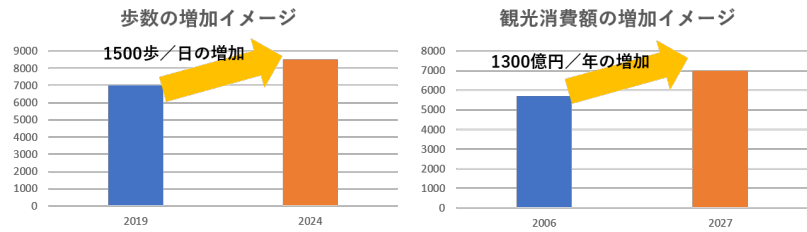
- ・ 本事業では「健康をきっかけとした市民参加型のデータシステム」の構築を目指す
- ・ 市民個人のデータを積極的に活用しながら、市民の健康行動や回遊行動を促進し、健康寿命延伸、まちのにぎわい創出を実現することを目標とする



# ICTにより健康・快適を実現する市民参加型スマートシティ (スマートウェルネスシティ協議会)

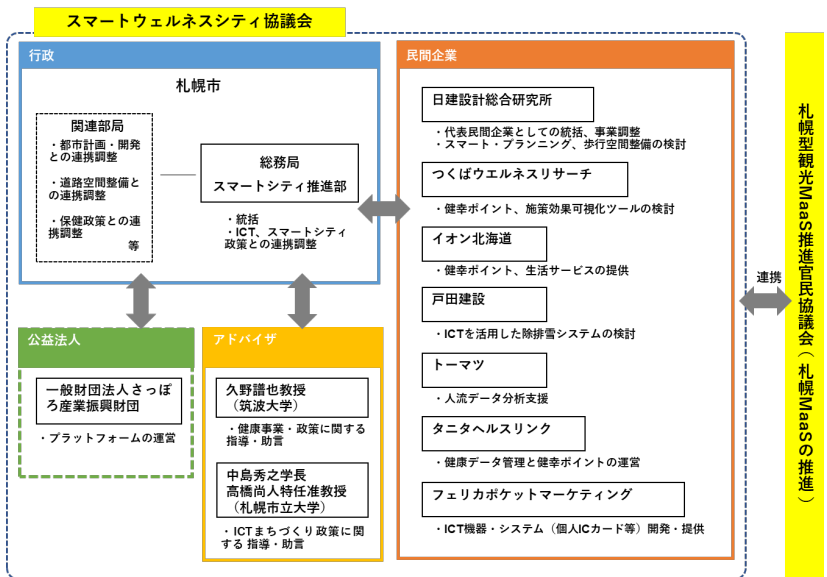
## ■スマートシティの目標(KPIの設定)

- 健康指標
  - ・市民平均歩数: 1500歩/日の増加(約20%増加)
- 賑わい指標
  - ・観光消費額: 7500億円/年(約20%増加)

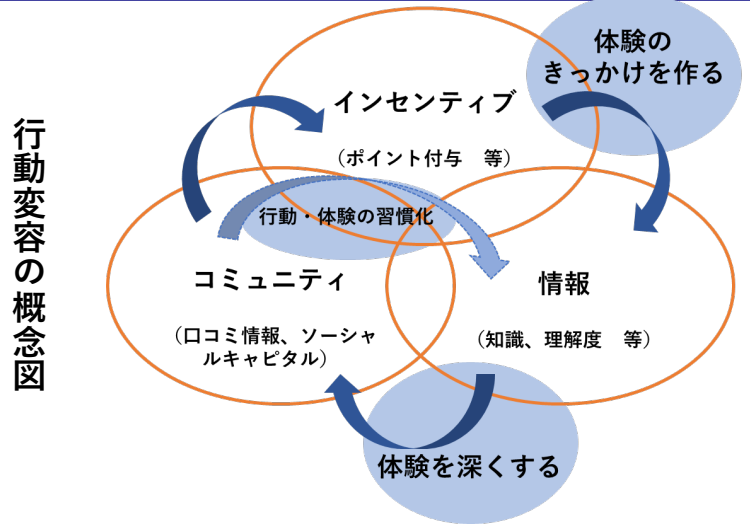


## ■運営体制

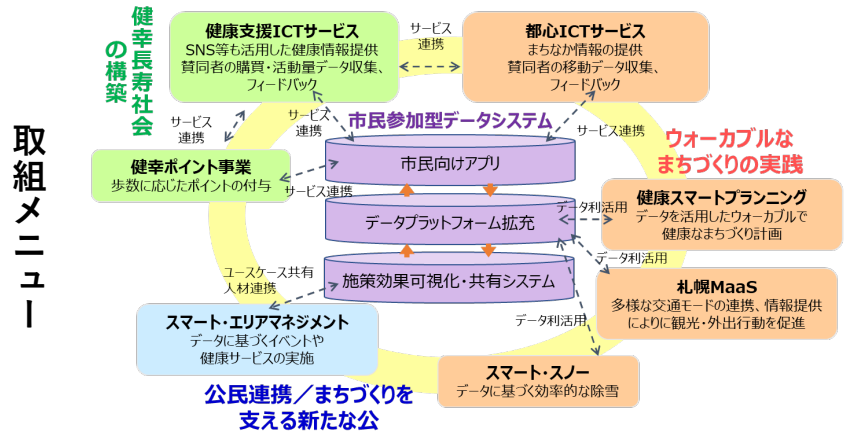
公民連携による以下の体制を構築



## ■導入技術



健康ポイント等の「インセンティブ」、ICTサービス等の「情報提供」、エリアマネジメントの「コミュニティ」分野により持続的な「市民参加」と「健康行動」を促進

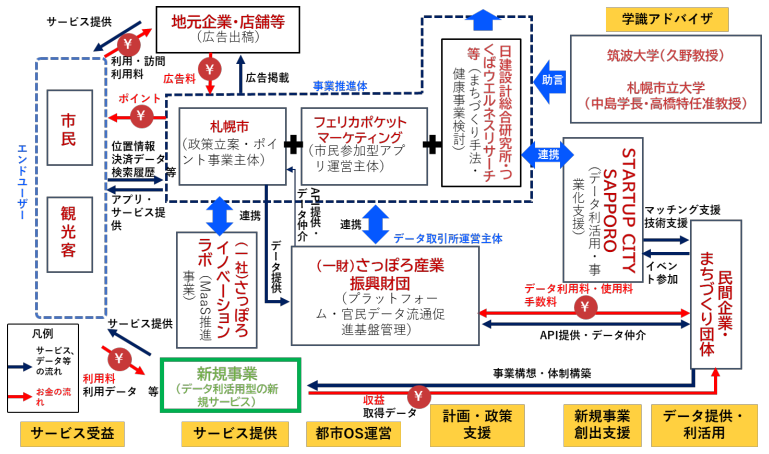


健康寿命の延伸、ウォーカブルなまちづくり、公民連携のエリアマネジメントをICTをもとに展開

# ICTにより健康・快適を実現する市民参加型スマートシティ (スマートウェルネスシティ協議会)

## ■ ビジネスモデル

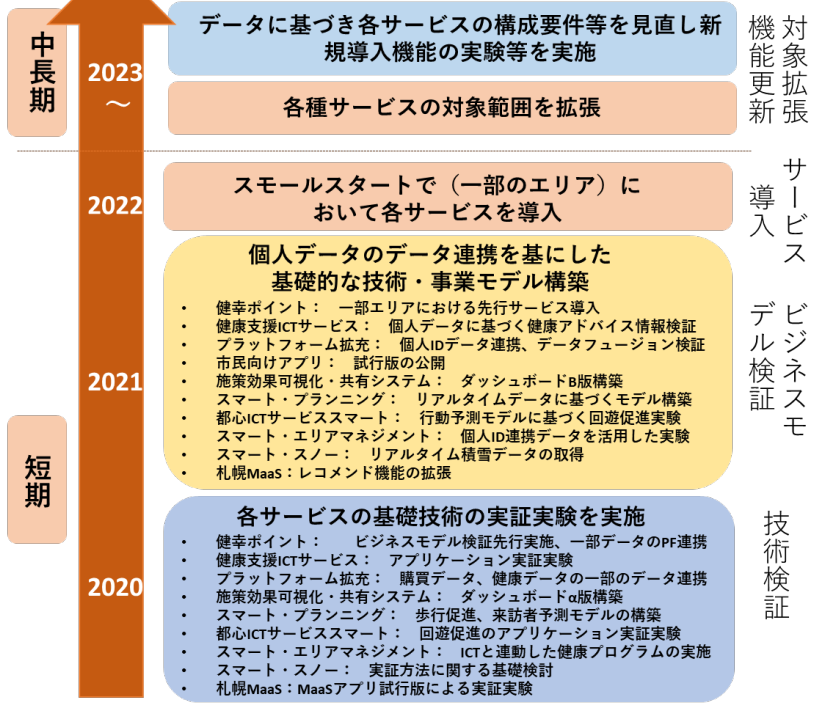
持続可能な取組とするため下記のビジネスモデルを検討



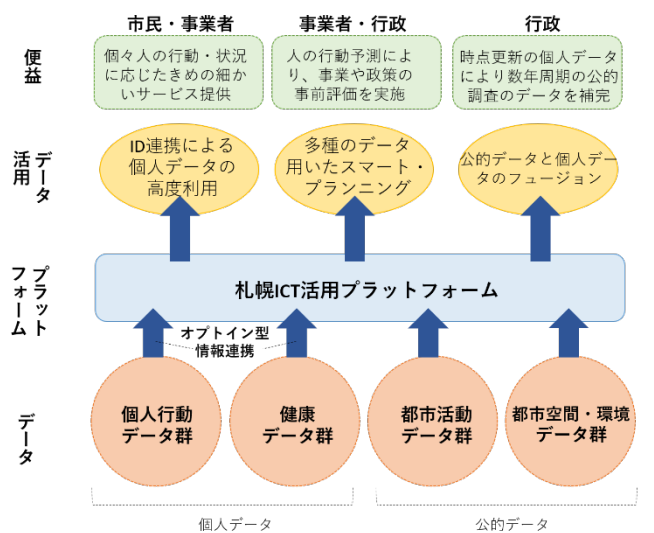
## ■ スケジュール

- 短期の取組内容
  - ・2020年度; 基礎技術の実証実験を実施
  - ・2021年度: ビジネスモデル検証(一部の費用に、民間資本等を活用した検証を実施)
  - ・2022年度: サービス・システム実装(スモールスタートで実サービスを導入)を目指す
- 中長期の取組内容
  - ・対象範囲を拡張、各サービスの構成要件等の見直し

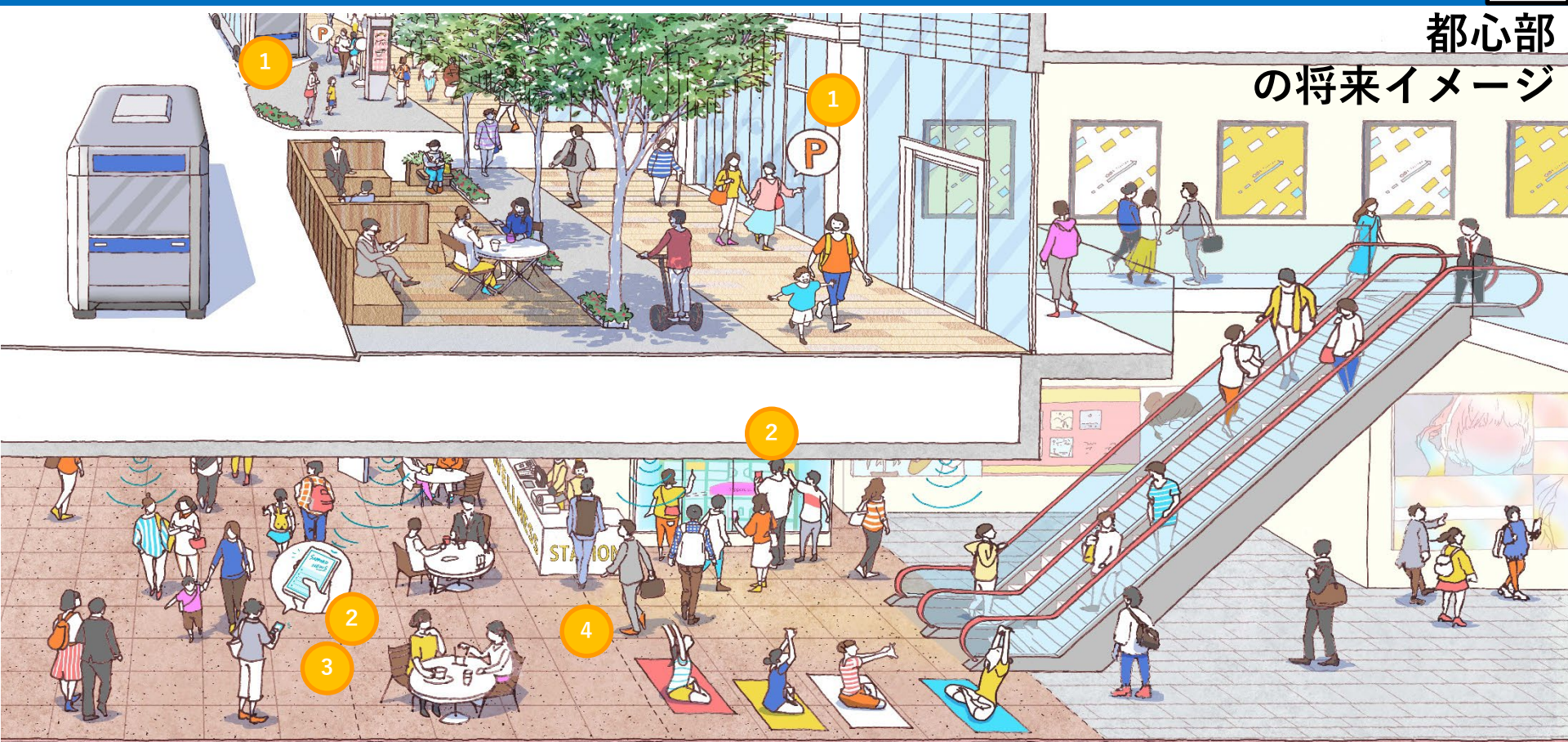
対象データ・地域を拡張しながら、順次サービスの効果測定を行い、PDCAに基づきスマートシティ構成要件を拡張・変更



## ■ データ活用方法



## 都心部の 将来イメージ



サービス名	①健幸ポイント事業	②都心ICTサービス	③健康支援CTサービス	④スマートエリア・マネジメント
サービス内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行数や公共交通利用回数に応じてポイント付与。</li> <li>人流ビッグデータも取得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユニバーサルな歩行支援情報</li> <li>アプリ、サインジで提供</li> <li>モニタリングのICTインフラ整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アプリで健康イベント情報やSNSを提供。市民間の繋がりで健康増進を継続。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>都心部のオープンスペースを活用し健康増進や賑わい創出に係るイベントを開催。</li> </ul>
暮らしの変化①	街のウィンドショッピングを楽しみながら健幸ポイントをゲット。貯めたポイントで買い物もできる。都心で過ごす時間が増え、まちの賑わいにも貢献している。	まち角でのイベントが多くなってきた。今日もサインジを活用しイベント情報を検索する若者が集まっている。アプリだけでなく多様な媒体で情報が取得可能。	—	地下空間に遊びに来た若者たちが、サインジを活用し都心部でのイベント情報を検索。そこまでのアクセラートはアプリと連携させ、歩行ナビで目的地まで誘導。
暮らしの変化②	健幸ポイントにより公共交通を利用する市民が増加。歩行と公共交通の増加でインフラ+ネットワークの実現にも貢献。	地下空間を歩行しながら、消費カロリーを確認。ウィンドショッピングを楽しみながら健康づくりもでき便利。もう少し歩きたいから、次のイベントか店舗を検索し、歩行ルートも確認。	右と同じ。一体サービスで展開。	—

## 郊外部 の将来イメージ



サービス名	①健康ポイント事業	③健康支援ICTサービス	⑤スマート・プランニング	⑥スマート・スノー
サービス内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行数や公共交通利用回数に応じてポイント付与。</li> <li>人流ビッグデータも取得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サイネージで健康イベント情報やジョギングコース等の情報を提供。</li> <li>市民の繋がりをつくるため、掲示板機能も提供。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民参加型のビッグデータで歩行空間や自転車道整備、オープンスペースの有効活用プランを計画。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用し、効率的な除雪を実現。これによりウォーカブル都市の実現を支援。</li> </ul>
暮らしの変化①	<p>駅前のショッピングセンターで買い物を楽しみながら健康ポイントをゲット。貯めたポイントで買い物もできる。都心で過ごす時間が増え、まちの賑わいにも貢献している。</p>	<p>今日の体調にあわせて最適なジョギングコースをサイネージで検索。来週はマラソン大会に参加するため、いつもより心肺負荷の高いコースを検索。科学的なデータも提示されるので、とても便利。</p>	<p>今まで賑わいの無い駅前空間だったが、最近では歩道が拡幅されるとともに、休息スペースや賑わいスペースも創られるようになり、まちの雰囲気が随分変わってきた。</p>	<p>人流ビッグデータと気象データ、道路幅員データの活用で、歩行者の多い道路から除雪作業を重点的に進めてくれるので、冬季もウォーカブルな空間になり、みんなの外出意向が高まる。まちの賑わい創出にも貢献。</p>
暮らしの変化②	<p>健康ポイントにより公共交通を利用する市民が増加。歩行と公共交通の増加でコンパクトネットワークの実現にも貢献。</p>	—	—	—